WASEDA University Extension Center Communication Magazin

早稲田の杜

Vol.36
2018・春

～2017年度の講座より

ルネサンス・イタリアの諸国家

三森 のぞみ先生

～2017年度の講座より

エジプト学概論

近藤 二郎先生

目次

02
「知の開拓」
講師インタビュー　柳谷 晃先生
受講生インタビュー 横山 敏子さん
04
ワセモリギャラリー
05
単位・修了・紺碧賞のご案内
修了生・紺碧賞受賞者のメッセージ
06
レジリエンスセミナー
～逆境に強いパーソナリティ～
08
早稲田の杜を歩く
インフォメーション

EXT 早稲田大学 エクステンションセンター

社会生活という観点から、数学を見つめる

「人間の歴史に数学はいつでも寄り添ってきました」。そうきっぱり語る柳谷先生。しかしながら、日常生活で数学を使っていると意識する機会は決して多くありません。たとえば「江戸時代で、百姓が貧しさゆえに子供を間引きしてしまう。でもそれでは、結果的に働き手がいなくなることですから、財政に影響が出ます。生産性をあげるには、そんなことをしてはいけないと考えるのは、まさに数学的でしょう?」

早稲田大学高等学院で教鞭をとり、数多くの論文も発表されている数学者の柳谷先生ですが、数学と歴史の密接な関係を解き明かす講座が先生の真骨頂です。エクステンションセンターで講座を担当するようになって約15年、最初は数学の内容が色濃く出た講座でしたが、途中から「受講生にもっと数学を楽しんでもらいたくて」今のようなスタイルに転換したそうです。「誤解している人が多いようですが、現実問題には色々な答えの可能性があります。その答えを導き出すための過程が数学です。現代でいうと、高齢者の急増と少子化で運営が危機に瀕しているとして問題になっている年金問題がありますが、どのような制度が幸せなのかを考えて、実現するためのシナリオを書くとき、数学がお手伝いできると思います。数学が使われている本当の姿を社会現象から理解してもらうためには、自身の講座を〝数学〟と捉えてもらわなくてもいっこうに構わない」と先生はどこふく風。「僕が数学者だから結論として数学の話になりますが、受講生の皆さんにとって内容が楽しければそれでいい。結局、数学は自ら学ぶ姿勢がないと理解できませんから」。

柳谷先生自身、数学は学校の先生ではなく近所に住んでいた東大の教授に学んだのだとか。その際、〝どこまで進んだのか〟と聞かれたので〝学校ではここまで学んだ〟と答えると、〝学校ではない、君がどこまでやったのか、だ〟と指摘され、感銘を受けたそうです。自分の講座を通してこうした姿勢をすべての人に持ってほしい――それが先生の願い。今後の抱負について尋ねると「そろそろ歴史のネタを仕入れないといけませんね」と笑われたあと、こう話されました。「学びは、教えたら教えたところまでしか育たない。だから、好きなことを自分で楽しく学ぶのが一番なのです。僕自身も、皆さんと一緒にエクステンションセンターの講座を存分に楽しんでいます」。

教える人

柳谷 晃 先生

（やなぎや あきら）1953年東京生まれ。早稲田大学高等学院教諭、早稲田大学講師。早稲田大学大学院理工学研究科数学専攻博士課程満期退学。町工場の品質管理、証券会社でMBAの数学研修などを経て現職。専門は、微分方程式と数理モデル。著書『日本を救う数式』（弘文堂）、『その「数式」が信長を殺した』（KKベストセラーズ）、『世の中の罠を見抜く数学』（セブン&アイ出版）ほか多数。

担当講座

「数学からみた歴史の出来事」
「業務に役立つ統計学」
「統計学は本当に最強か」
「数学的発想と思考法を身につける「業務に役立つ数学」」

開拓 ちのかいたく

柳谷先生の 学びの提言

著書紹介

『**面白くて仕事に役立つ数学**』（SBクリエイティブ）
「企業の寿命は30年」は本当か？　男女の相性を数値化するには？　日常の疑問・問題を数学的に解き明かす。数学が苦手な人にも数学の本質が感じられる1冊。

『**その「数式」が信長を殺した**』（KKベストセラーズ）
戦国時代の覇者・織田信長の運命は数式で解き明かすことができる。関ヶ原の合戦に勝利した徳川家康の打算とは？　優れた武将たちはここぞという判断の際に数学の法則を使っていた。歴史の謎を数学で解き明かす。

「知」の

横山 敏子さん

2017年度 受講講座

「数学からみた歴史の出来事」
「ほんとうに面白い百人一首」

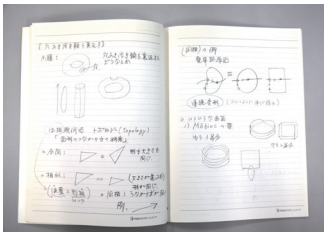
学ぶ人

〝数学が好き〟を大切に、学びを吸収して

ご子息が本学を卒業したご縁もあり、エクステンションセンターで学び続けている横山さん。その継続年数は1993年のご入会以来足掛け20年以上になり、3年前には76単位を取得、晴れて修了証書を授与されました。「私は女学生だった頃から数学が大好きだったのですよ。特に図形を描いて解いていくようなものとかね」。学校は進学組と就職組に分かれており、横山さんは就職組だったため、せっかくの数学も学べる範囲が狭められてしまったのだそう。自分が興味ある分野なら、たとえ時を経てもまた勉強してみたいという飽くなき探求心が、横山さんを突き動かしているのかもしれません。「それから、歴史も好きなんです。その時代に起こった出来事を淡々と学ぶというよりは、自分の暮らしの中で身近に感じることを歴史に紐づけて調べています」。控えめな性格からは考えられないほどバイタリティがある横山さんは、疑問に思えばすぐに図書館へ行くのが日課。そこで様々なことを調べているうちに、数学と政治経済の関係を中心に歴史を解説する柳谷先生の存在を知りました。「柳谷先生は数学者でいらっしゃるけど、私にとっては歴史の先生でもあります。数々の戦争や古い建築物、偉人が生きた時代の経済状態など、今まで考えもしなかった側面に数学が関わっていたという事実が先生の講座を通してよくわかります。たまに計算式が難しくて困ってしまうけれど(笑)、学校では決して学ぶことができない先生ならではの視点でお話しくださる内容は共感できるし、とても興味深いです」。

最近、柳谷先生から戦国大名 今川義元の話を聞いて自宅付近に〝今川〟の地名があるのを思い出し、さっそく菩提寺を訪問。境内で見かけた碑文を書き写し、日本語・英語で読み比べをしたところ「勉強の仕方をよく知っていますね」と柳谷先生から褒めていただいた。

「先生の講座を含め、これまでの講義内容を書き留めたノートもたくさん溜まりました。根底にあるのは〝数学が好き〟という気持ち。これを大事にして、肩ひじ張らず自分なりに学びを吸収していきたいですね」。



▲これまでの講義内容をまとめたノートは大切に保管している。

横山さんの 学びの履歴書

受講科目

2016年度
- 数学からみた歴史の出来事
- ほんとうに面白い百人一首

2015年度
- 数学からみた歴史の出来事
- ほんとうに面白い百人一首
- 日本中世史講義

2014年度
- 数学からみた歴史の出来事
- 地図でたどる日本の地名
- 人物でたどる戦国史
- 漢字に託した日本の心

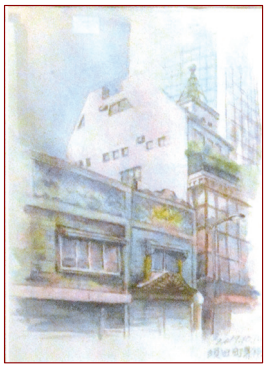
受講生の作品をご紹介

ワセモリギャラリー

「風景の詩Ⅰ、Ⅱ」（早稲田校）

「秋、京都」
篠山 誠一さん（2010年入会）

「湖畔のシンフォニー」
久保田 武文さん（2004年入会）



「銅板の家」
堀内 優子さん（2005年入会）

「ステップアップ写真撮影術」（早稲田校）

「GINZA CROSS」
木内 美津子さん（2016年入会）

「輝きの朝」
大久保 恒夫さん
（2017年入会）

「朝靄の中で」
加茂 広海さん（2017年入会）

「いちからはじめる水彩画」、「水彩ステップアップ講座」（早稲田校）

「抽象」
奥津 幸江さん
（2005年入会）

「憩（いこい）」
関原 悦子さん
（2007年入会）

「みつめる」
田中嘉明さん（2008年入会）

「西洋書道カリグラフィー教室」（中野校）

河合 みさをさん
（1997年入会）

斎藤 和さん
（2014年入会）

「コリント信徒への手紙 第13章」

北河原 映子さん
（2014年入会）

「しあわせ感じてぐるぐるまわろう」
谷口 順子さん
（2000年入会）

単位・修了の紅碧賞

ご案内

単位

オープンカレッジの講座には独自の単位が設定されています。（90分授業×5回＝7・5時間で1単位）講座では、出席カードにより出欠を確認します。全授業回数の2／3以上の出席をもって所定の単位取得となります。（ビジターの方を除く。）

目指せ！ 修了生

76単位を取得されるとオープンカレッジ修了となり、次年度のオープンカレッジ開講式にて「修了証書」を授与します。修了後は終身会員となり、以後の会員更新料が不要となる他、早稲田大学の「推薦校友」に推薦可能となります。また、修了生の親睦組織「稲修会」にもご入会いただけます。

推薦校友とは

早稲田大学の卒業生・教職員校友・推薦校友・早稲田大学名誉博士は「校友」と呼ばれます。推薦校友は、早稲田大学校友として推薦される要件を満たし、早稲田大学の同窓会組織「早稲田大学校友会」に承認された方を指します。「早稲田大学校友会」の正会員となります。

憧れの紅碧賞

さらに取得単位が150単位となりますと「オープンカレッジ紅碧賞」を授与します。紅碧賞はオープンカレッジの最高峰です！

修了メッセージ

「素敵な講師や同学の友との出会い」

高平 和紀さん（2007年入会）

定年後、仕事上の専門知識だけは身に付いたものの、世の中のことがどれだけわかっているのかという疑問にとらわれ、今一度母校で学び直してみようと思い立ちました。これが早稲田大学オープンカレッジとの出会いです。

受講してきた講座は、人文系への幅広い興味から文学、歴史、映画、写真、美術、宗教など多岐にわたります。この学びを通して、単なる知識だけではなく、素敵な講師の先生方や年代を問わず共に知的世界を共有できる同学の友との出会いがあったことも大きな副産物でした。

振り返ればあっという間の十年でしたが「継続は力」。これからも知的好奇心の赴くまま様々な講座にチャレンジしてみたいと思います。

紅碧賞メッセージ

「5年かけて旅した『奥の細道』」

森岡 桂子さん（1990年入会）

初受講は1990年、「テクニカルライティング」でした。当時は会社勤めをしており、スキルアップのため、主に業務に役立ちそうな講座を受講していました。

現在は、興味を持った講座を選んで受講しています。今まで学んだことで特に印象に残っているのは、「トラベルスタディ」に参加し、「奥の細道」を5年かけて廻ったことです。講座自体は平日で受講できなかったのですが、講師の先生も受講生の方々も暖かく受け容れてくださり、おかげで毎年アカデミックな旅を楽しむことができました。

受講生には私よりずっと先輩の方々も多く、皆さんお元気に勉学に励んでいらっしゃいます。私もいつまでも学ぶ意欲を失わないよう、今後も受講を続けたいと思います。

紅碧賞メッセージ

「2020年の東京五輪をめざして」

小寺 茂樹さん（2005年入会）

50代半ばにさしかかり「団塊世代の責務について考える」という講座が目に入り、受講してみたのがきっかけでした。同世代の人も多く、話を聞くほどに新鮮な気持ちになったことを記憶しています。

多様なジャンルの多くの講座がある点が魅力的で、最近は日本の近現代史を中心に受講しています。評価が固まっていない歴史事象をいろいろな角度から考えたり、入手が難しい資料が配布されることも楽しみです。また受講した仲間とその後も定期的に交流を続け昨年10周年を迎えました。

何歳になっても大学へ通うということで受ける刺激も大きく、次は2020年の東京オリンピックに向け英会話にもチャレンジしてみたいと思っています。

Seminar

レジリエンスセミナー ～逆境に強いパーソナリティ～

当センターでは、不確実で変化の激しい現代における社会の問題を取り上げ、解決の糸口を探る機会を提供したいという思いから、働く世代や子育て世代の皆様を対象とした連続セミナーを企画しております。今回は、その第4回目として2017年11月25日(土)、中野校にて開催。毎回好評を得ている同企画に、今回もたくさんの方々にご参加いただきました。グループワークも挟みながら展開された貴重な講演内容をお届けいたします。

Program

13:30 **セミナー①**
「面白がって働ける組織のつくり方 ～柔軟で折れにくい会社の理由～」
講演者：柳澤大輔氏
（面白法人カヤック代表取締役CEO）

15:30 **セミナー②**
「しなやかに遊ぶように生きる～あなたのライフスタイルから自分を解放する～」
講演者：向後千春氏
（早稲田大学教授）

セミナー①「面白がって働ける組織のつくり方」

カヤックは大学の同級生3人で起業した会社です。仕事は「何をするか」より「誰とするか」が重要だと思っている僕らは、事業形態などは後回しに〝面白法人〟という名前だけ決めました。名付けたのは直感だったけど、これを基に仕事をしていけば何事も乗り越えていけると思ったのです。

いい経営理念とは、具体的な方法論まで語っていなければいけないと思います。たとえば「幸せになろう」だけでは〝どのようにして〟幸せになるかがわからない。そこで思い出したのは、自分が2年間だけ送ったサラリーマン生活でした。それなりに充実していましたが、朝起きて会社に行くのが楽しみかというと、そこまでではありませんでした。やはり、つくる側にならなければ楽しくならないのだと思い、〝面白法人〟の定義を以下の3つに定めました。

①自分たちが面白がろう
毎日行くのが楽しい会社にすること。
②周囲からも、面白いと言われよう
自分だけが面白いと思うのではなく、会社の活動そのものが面白いと周囲から認められるような実力をつける。
③誰かの人生を面白くしよう
社会貢献的な観点で、少しでも世の中に面白がる人を増やす。

最初に決めた〝面白法人〟を具体的に言語化した定義であり、今ある会社の制度はこれに基づくような考え方で設計していきました。たとえばカヤックが実施しているサイコロ給（毎月サイコロを振って給料を決める）は、他人の評価でイヤな思いをする人がいるならカヤックでは面白がって人を評価しましょうというもの。こうした制度一つひとつが面白法人のコアになっていることは間違いありません。

ところで、自分たちがつくる側にならなければ楽しくなれないと明確に気づいていたので、カヤックはクリエイター集団として活動していくことになります。年々事業は拡大し、ゲームや映像コンテンツの制作からウェディング・葬儀・不動産関連まで多岐に亘るにつれ社員数も増加しましたが、それに伴い継続的な生産を支える裏方も増えますからモノづくりに携わる人がどうしても減ってしまう。面白いモノをつくるには、何事も「自分事化」し、自分が主体的に関わっていかないと楽しくならない傾向にあります。そこでカヤックが積極的に取り入れているのがブレーンストーミングです。ブレストとは限られた時間内で自由にアイデアを出し合う方法のことで、カヤッ

カヤック調査：好業績社員は遊ぶように仕事している

私はカヤックの社外人事という立場で面白法人カヤックに関わっています。客観的な視点でカヤックを研究し、その結果をカヤックに還元していく役割です。昨年は同社の好業績社員に関する調査をしました。精緻なアンケート調査を実施したのですが、その分析結果に私は愕然としました。彼らは、ほかの社員に比べてジョブインボルブメント（仕事に熱中・没頭する姿勢）が弱かったからです。さらに、ストレスに感じる業務に対しては回避傾向があった。つまり、嫌なことを遠ざけるタイプが多かったんですね。これは一般企業とは真逆の傾向です。不思議に感じてインタビューしていくとその違和感は解消されました。彼らは遊ぶように面白がって仕事をしていました。嫌なことには極力エネルギーを注がず、自分が楽しいと思うものに全力で集中していたんですね。カヤックの社員の中でも、誰より面白く働いている。それが彼らだったんです。

■ **神谷 俊氏**
面白法人カヤック
社外人事部

「ブレストもそうですが、カヤックで取り交わされるコミュニケーションはお互いの個性を前提に、それを面白がる感覚です」と語る柳澤大輔氏。新しい会社の在り方に、参加者の皆さんは興味津々です。

クでは〝質より量〟を重んじます。とことん話し合うことで仲間の結束意識が高まり、何よりアイデアを出しているうちに脳がトレーニングされて、自然につくる側の体質に育つのです。ブレストという方法を取り入れたからこそカヤックは、事業の裾野が広がっても面白法人のコアを保ち、面白さを世に発信していくことができるのです。安心してつくり手も増やせるというところに行き着いたので、現在の経営理念は「つくる人を増やす」です。皆さんも、物事を「自分事化」した時点で人生が2倍楽しめるようになると思います。

セミナー②「しなやかに遊ぶように生きる」

動物界で最弱である人間は、コミュニティをつくることで文明を発展させてきました。人と人が集うコミュニティを良好に維持していくためには、お互いに意思疎通を図り協力し合わなければなりません。では、うまく協力し合うにはどうしたらいいのか、それにはまず自分自身を知り、かつ生まれや育った環境も違う相手のことを認めてこそ成し得るはずです。このことを前提に今日はお話を進めていきましょう。

アドラー心理学をご存知ですか。約100年前にアルフレッド・アドラーがつくった心理学で、3つのキーワードがあります。一つ目は「劣等感」。人間は誰でも劣等感をもっているが、いずれ克服しようという努力を後押しし、人間の成長の原動力になるものであるとアドラーは説きました。二つ目は「ライフスタイル」。人間は幼稚園、学校、会社といった共同体の中で生きていくために自分が所属する居場所を見つけます。だいたい、無意識のうちに自分の長所を活かして所属を見つけており、これをライフスタイルと呼びます。ここでいうライフスタイルとは、人格・パーソナリティといった意味が近いです。三つ目は「共同体感覚」。こうした共同体の中で協力し合って生きていくことの重要性を説いています。

このうち、アドラーが特に注目したのが「共同体感覚」です。アドラーは「すべての問題は人間関係である」と言い切っていますが、人間が共同体に所属しないと生きていけないのなら、共同体の中でお互いを認め合い協力してこそ良好な社会が築けるというのがアドラーの構想なのです。冒頭に、良好な関係を維持するには自分自身と相手を知ることだとお話ししましたね。ではさっそくチャートを使って自分自身のライフスタイルを明らかにしていきましょう。

今回は行動区分を能動的・受動的／対人関係優先・課題達成優先で差別化しました。これでまず、自分自身のライフスタイルが明確になりますね。そして、ご自分の周りの人達はどのタイプに当てはまるでしょう。たとえば自分が対人関係優先×能動的なタイプであれば、相手にはたらきかけたいリーダータイプとなり、どちらかというと服従することには苦手意識があります。それなのによく顔を合わせる人が服従を求めるタイプだと合わないかもしれません。あるいは対人関係優先×受動的なタイプは、基本的に人生において人気者でいたいというのが見てとれます。このように、自分自身と相手のライフスタイルを明らかにすることで相性を判断します。もちろん、似たようなタイプでもうまく協力し合えるチャンネルがあるかもしれません。

人間関係がうまくいかないと、誰もが相手に「変わって欲しい」と要求してしまいがちです。しかし、人は変えられないのです。相手をよく観察し、ライフスタイルやその人の人生目標を見抜いた上でうまくコントロールしていく。それが良好な人間関係を築くもっとも生産的な方法だと思います。

ベストセラーの話題本やドラマの影響もあり、最近は日本でも徐々に浸透してきたアドラー心理学。向後千春氏によるグループワークを挟んでの講演は大いに盛り上がり、たくさんのご質問も投げかけられました。

Profile

■ 柳澤 大輔氏

香港生まれ。慶應義塾大学卒業。1998年、面白法人カヤック設立。鎌倉に本社を置き、ゲームアプリ、各種キャンペーンアプリやWebサイトなどのコンテンツを数多く発信。さまざまなWeb広告賞で審査員もつとめる。カヤック設立から一貫して、ユニークな人事制度やワークスタイルなど新しい会社のスタイルに挑戦中。

■ 向後 千春氏

1958年生まれ。博士(教育学、東京学芸大学)。専門は教育工学、教育心理学、特に、eラーニング、成人教育、インストラクショナルデザイン。著書に『アドラー式「しない」子育て』(白泉社)、『幸せな劣等感』(小学館新書)、『いちばんやさしい教える技術』(永岡書店)、『統計学がわかる』(技術評論社)など。

早稲田の杜を歩く

早稲田キャンパス7号館編

早稲田キャンパスの中心に立つ大隈重信像。このすぐ横にある7号館2階では長年にわたりエクステンションセンターの講座を開講してきました。このほどきれいにリニューアルされたので、ご紹介します。

◀7号館の外観、エントランス前に大隈重信像がある。

▲◀7号館2階の212教室とその入口付近。

Information

悪天候による休講時は……

雪、台風等の悪天候による全学休講は個別連絡をいたしません。
「早稲田大学緊急用お知らせサイト」で確認してください。

早稲田大学緊急用お知らせサイト
https://blogs.yahoo.co.jp/waseda_public

PCやスマートフォンに登録をお願いいたします。

当センターのホームページから受講申し込みをすると、受講料が3%割引になります。

Webからお申し込みで 3%OFF!

会員先行申込の場合は……

1 当センターホームページの「講座検索・申込」をクリック。
2 「会員先行はこちら(ログイン画面へ)」という黄色いボタンをクリック。
3 「ログイン」画面で「会員番号またはメールアドレス」と「パスワード」を入力。

「早稲田の杜」は当センターホームページでもご覧いただけます。http://www.ex-waseda.jp　早大　エクステンション　検索

EXT 早稲田大学エクステンションセンター
■発　行　早稲田大学エクステンションセンター
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1
TEL：03-3208-2248　FAX：03-3205-0559　e-mail：wuext@list.waseda.jp